


※  は市旗です。市全体の話題の場合に表記しています。

鹿屋

田崎ソフトボール 228チームの頂点に輝く



3月に、薩摩川内市などで228チームが参加して行われた「第37回県ちびっこソフトボール大会」で初優勝を果たした田崎ソフトボールチームが、4月22日、市役所を表敬訪問しました。「守りのチーム」と自分たちで分析をする田崎チームは初戦から苦しい試合の連続。投手戦となった決勝では、延長戦の末、東谷山を1-0で下して、念願の初優勝をつかみ取りました。主将の松浦君が「みんなの応援があったからこそ優勝できた。本当に感謝しています」と喜びと感謝の言葉を述べ、嶋田市長は「この経験を活かし、中学校でも頑張ってください」と激励しました。

鹿屋

トップアスリートが鹿屋で合宿



昨年の名古屋国際女子マラソンで優勝した加納由理選手が所属する陸上競技クラブチーム「セカンドウィンドアスリートクラブ」が4月13日から6日間、全日本実業団女子駅伝に連続出場している「エディオン女子陸上競技部」が7日間、また、「トライアスロン日本代表チーム」が25日から16日間の日程で、市内で強化合宿を行いました。

産学官連携によるトップアスリートの合宿誘致は1月に行われたプロ野球選手の自主トレに続いて2度目。最先端の測定機器やスタッフを有する鹿屋体育大学をメインに、測定や質の高い練習が行われました。

輝北 日ごろの練習の 成果を競う



4月9日、輝北町上野引の輝北運動場で「第23回加瀬田ヶ城旗争奪ゲートボール大会」が開催されました。大会には、大隅半島全域から49チーム約300人が参加。参加者は親睦を図りながら、日ごろの練習の成果を競い合いました。結果は次のとおり

- 【優勝】ラビットチーム（鹿屋市）
- 【2位】ひまわりチーム（志布志市）
- 【3位】佐多キングチーム（南大隅町）

輝北

雄大な景色の中を歩く



4月29日、輝北うわば公園で「輝北・グリーンハイキング」が開催されました。

去年は、口蹄疫の影響で中止されたため、2年ぶりの開催。当日は、市内外から160人が参加し、4kmと8kmのコースを思い思いのペースで歩き、春のハイキングを楽しんでいました。

終了後は、地元特産品などが当たる抽選会も行われました。

串良 満開の桜の中を 駆け抜ける



4月3日、串良平和公園で「2011くしら桜まつりジョギング大会」が開催されました。

今年も、東日本大震災を受け、チャリティイベントとして開催された同大会には、4種目に875人がエントリー。

参加者は、さわやかな春の日差しの下、沿道の声援を受けながら、桜並木のトンネルを懸命に走り抜け、健脚を競いました。

鹿屋

小学生が柔道で 全国大会に出場



東京都で行われる「第31回全国少年柔道大会」に出場する光武館の小学生5人が、3月28日、市役所を表敬訪問しました。

同チームは、3月に行われた県予選で優勝し全国大会への出場権を獲得。嶋田市長に「日本一になって鹿屋市をPRして帰ってきてください」と激励された5人は「優勝目指して頑張ります」と力強く抱負を話してくれました。

鹿屋

新入学児童の 交通安全を願う



4月6日、入学式が行われた市内の各小学校で「新入学児童ピッカピカ作戦」が行われました。

これは、市内の新入学児童全員に黄色い帽子、ワッペンなどを配り、児童を交通事故から守ろうと毎年行っているもの。

西俣小学校では、地域の交通安全指導員が新入学児童に「入学おめでとう」と声をかけながら、交通事故防止グッズを配りました。

輝北

農業研修生修了式



4月7日、輝北町諏訪原の財団法人輝北町農業公社で、同社が実施している研修事業の「第10期研修生修了式」が行われました。

式には、2年間の研修を終えて、輝北地区で新規に就農する石井幸生さんが出席。

石井さんは「研修で学んだことを活かして、早く一人前の農家になりたい」と抱負を話してくれました。

鹿屋

カサゴの稚魚10,000尾放流



4月21日、古江町の鹿屋港の沖合で、カサゴの稚魚の放流が行われました。

この放流は、生産の増大や採る漁業から作り育てる漁業への移行などを目的に市と漁協が共同で行なったもので、今年で8年目。放流が行われたのは、ふ化後3か月で体長約40mmの稚魚10,000尾。放流に参加した古江小学校の5・6年生11人が、「元気で大きく育ててね」と声をかけながら放流すると、元気よく海を泳いでいきました。

カサゴの稚魚は、約2年で15cmほどに成長するそうです。

鹿屋

鹿屋の食材を堪能 ～鹿屋体育大学新入生との交流会～



4月5日、リナシティかのや前のイベント広場で、恒例となっている「鹿屋体育大学新入生との交流会」が開催されました。

これは、体育大学の新生に一日も早く地域に溶け込んでもらおうと「地域づくり交流事業実行委員会」が毎年行っているもので、今年で15回目。交流会では、小林正義会長が「早く鹿屋に慣れて、鹿屋の良さを全国に情報発信していただきたい」とあいさつを述べました。また、かのやカンパチや鹿児島黒牛、黒豚など、地元食材を使った料理が振る舞われ、参加した新生199人は鹿屋の味を堪能していました。